

2018年度公衆衛生学 各講義の学習目標

公衆衛生学最終試験のための学習ポイントです。講義内容を良く復習するように。

月日	項目	課題
10月1日	公衆衛生学の基礎: 総論(公衆衛生学とはどんな学問か?)	公衆衛生の特徴を、基礎医学、臨床医学・看護学との違いから説明できる。 近代における結核の死亡率減少の要因を、公衆衛生的に具体的に説明できる。 「古之善為医者」について、公衆衛生学講義での例を用いて説明できる。
10月1日	生涯を通じた健康づくり: 成人期①(日本人の健康状態・難病)	性別、主要死因別にみた年齢調整死亡率の近年における推移の特徴を説明できる。 禁煙の効果について、具体的に事例を用いて説明できる。 ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチについて脳卒中以外の事例を用いて説明できる。
10月1日	公衆衛生学の基礎: 地域医療を担う医師として働く(病院医師として)	多職種による連携について、心臓リハビリテーションを例に挙げて説明できる。 地域資源を活用した包括的な疾病管理について、循環器疾患を例に挙げて説明できる。 福島県における心臓リハビリテーションの実態とその課題について具体的に説明できる。
10月5日	生涯を通じた健康づくり: 周産期・乳幼児期	妊娠後に受けられる主な母子保健サービスについて具体的に説明できる。 妊婦および乳幼児の受動喫煙による影響を説明できる。 喫煙対策について、ヘルスプロモーションのモデルを用いて説明できる。
10月5日	公衆衛生学特論:医療経済	医療の経済学的特殊性について説明できる。 医療保険のかかえる問題点について説明できる。 わが国の医療保険の成果について説明できる。
10月12日	生涯を通じた健康づくり: 成人期②(生活習慣病のリスクと予防:総論)	疾病発生への寄与の視点から、生活習慣への働きかけの意義を具体的に説明できる。 近年の肥満、低栄養傾向の者の状況について概説できる。 日本人における高血圧の特徴(血圧水準、有病率、原因等)について説明できる。
10月12日	生涯を通じた健康づくり: 成人期③(生活習慣病のリスクと予防:各論)	日本人における脳卒中の特徴を詳細に説明できる。 特定健康診査・特定保健指導について、その概略を説明できる。 健康日本21(第2次)の考え方、概念を説明できる。
10月15日	公衆衛生学の基礎: 地域で公衆衛生医として働く(国際保健の立場から)	世界の保健医療問題のパラダイムシフトについて説明できる。 国際協力の体系について説明できる。 SDGsとは何か、またその概要について説明できる。
10月15日	生涯を通じた健康づくり:出生前・周産期	リプロダクティブ・ヘルスについて、1994年国連人口開発会議で確立された概念を説明できる。 日本の合計特殊出生率の動向について、諸外国と比較して説明することができる。 子育て世代包括支援センターの役割について、概要を説明することができる。
10月15日	公衆衛生学特論:がんの疫学	がん対策をより一層推進するため、2006年に成立した“がん対策基本法”の基本的施策5つを答えることができる。 日本人において、どの部位のがん死亡が多いか、男女別に、年齢による変化を説明できる。 がん検診のもたらす利益と不利益について、説明できる。
10月19日	公衆衛生学の基礎: 地域で公衆衛生医として働く(保健所の立場から)	保健所の役割について説明できる。 保健所長が備える資格について具体的に説明できる。 健康危機管理における保健所の役割について説明できる。
10月19日	生涯を通じた健康づくり: 学童期・思春期・青年期	平成21(2009)年に『学校保健法』が『学校保健安全法』に改正された背景について説明できる。 学校三師の主な役割と職務について具体的に説明できる(学校保健安全法)。 健康な生活を送るために、児童生徒に必要な力を上げることができる(現代的健康課題を抱える子供たちへの支援:平成29年3月文部科学省)。
10月22日	生涯を通じた健康づくり: 高齢期①(高齢社会:総論)	加齢と老化の特徴について具体的に説明できる。 高齢期における健康指標について説明できる。 老年人口の割合の推移および、その課題を説明できる。
10月22日	地域の病院から見る地域医療・公衆衛生の課題 相馬地方での放射線に関わる7年間の活動から	現状の分析について、内部被ばくの事例を用いて説明できる。 地域の人々に還元する方法について、内部被ばくの事例を用いて説明できる。 震災後の福島県における糖尿病と高脂血症の特徴を説明できる。
10月29日	生涯を通じた健康づくり: 成人期④(メンタルヘルス)	精神保健医療福祉の現状について、社会復帰、地域移行の必要性を中心に説明することができる。 わが国の自殺対策で包括的な対策が必要であった背景や理由について説明することができる。 わが国の自殺の状況、特に若年者の状況について、諸外国と比較して説明することができる。
10月29日	公衆衛生学特論:難病の疫学	難病対策の5本柱を説明できる。 難病指定医の役割とその重要性について説明できる。 難病対策における疫学データに基づく知見の重要性を、具体例を用いて説明できる。
11月5日	生涯を通じた健康づくり: 高齢期②(高齢者保健対策)	老年症候群について、その特徴と概要を説明できる。／または、フレイル、及び、サルコペニアについて概説できる。 ICIDHからICFへの転換について、それぞれの概要も含め説明できる。 「愛こそは想像力です」を高年齢保健の視点から論ずることができる。
11月5日	公衆衛生学特論:原子力災害の公衆衛生	リスクの定義について説明できる。 リスクコミュニケーションを構成する4つについて説明できる。 リスク状況(不確実性)における意思決定について、具体例を用いて説明できる。
11月12日	生涯を通じた健康づくり: 高齢期③(介護予防)	介護保険制度の概要について説明できる。 介護保険制度における医師の役割について説明できる。 介護保険制度が「予防重視システム」に転換されるに至った経緯や意義について説明できる。
11月12日	公衆衛生学の基礎: 地域で公衆衛生医として働く(研究者の立場から)	サクセッフル・エイジング、及び、プロダクティブエイジングについて説明できる。 高齢者のための国連原則について具体的に説明できる。 地域で働く公衆衛生医の実例から、公衆衛生医の役割について説明できる。